

庁舎移転に伴う中心市街地活性化について

1. 第3期中心市街地活性化基本計画の概要

平成30年3月に3期目となる「鳥取市中心市街地活性化基本計画」（平成30年4月～令和5年3月）を策定し、国の認定を受けた。本計画では、中心市街地の現状やこれまでの取り組みの検証、中核市への移行、連携中枢都市圏の形成、市役所本庁舎の移転、鳥取城跡周辺の整備など新たな状況を踏まえ、広域から様々な人々が集い、地域や世代がつながり、賑わいや活力、交流のある、山陰東部の都市核としての中心市街地を目指し、官民が連携して中心市街地の再生に取り組んで行く。

【テーマ】

「集い、つながる、とっとりのまち 山陰東部の都市核づくり」

【基本の方針】

○交流による活気のあるまち

自然、歴史、文化など鳥取らしさをいかした観光交流や、地域交流を通じて、活気のある中心市街地の形成を目指す。

○誰もが豊かに暮らせるまち

これからのまちを担う若者が、暮らし働き交流することを通じて、さまざまな世代の人々が豊かでいきいき暮らすことができる中心市街地の形成を目指す。

【エリアコンセプト】

○鳥取駅周辺地区

山陰東部圏域の中心市の核として、駅を中心にさまざまな機能が集積する舞台。

○鳥取城跡周辺地区

歴史・文化等を有する観光交流と、豊かな居住の舞台。

【目標】

○地域資源等を活かした交流人口の拡大

自然、歴史、文化など鳥取らしさを活かしたまちなか観光の振興や、市民活動等の促進により、交流人口の拡大を目指す。

○回遊・滞在による経済活力の向上

来街者の回遊・滞在を促進するとともに、消費を促進することにより、経済活力の向上を目指す。

○若年層のまちなか暮らしの促進

空き家等既存ストックの利活用や子育てにやさしい生活環境づくりなどにより、若年層を中心としたまちなか暮らしの促進を目指す。

【計画事業数】 全68事業

鳥取城跡大手登城路復元整備事業、民藝館通り周辺活性化事業、地域交流センター整備事業、起業のまち「鳥取」創造プロジェクト事業、リノベーションまちづくり事業、市道太平線賑わい空間活用事業、既存ストック居住促進地域連携事業、鳥取市役所駅南庁舎整備事業（健康づくり、子育て支援）、まちなか子育て支援事業 ほか

2. 庁舎移転と中心市街地活性化

中心市街地活性化基本計画では、庁舎が移転する鳥取駅周辺地区を「山陰東部圏域の中心市の核として、駅を中心にさまざまな機能が集積する舞台」とし、中核市、山陰東部圏域の中心市の玄関口として、交通結節点機能の強化や、商業、行政サービス、交流、防災等の様々な機能の充実を図ることとしている。併せて、新たな人の流れを創出するため、駅北側商店街から駅南口に至るアクセス改善等により、回遊性を高め、賑わいを中心市街地全体に波及させることを目指している。

また、計画では、中心市街地内に複数のゾーンを設定しており、各ゾーンの機能の充実と相互の連携を図ることにより、中心市街地全体の活性化につなげることにしている。その中で、新本庁舎周辺は、「市民サービス・情報発信・防災機能集積ゾーン」、駅南庁舎周辺は「福祉保健機能集積ゾーン」と位置づけ、それぞれの機能の充実を図ることとしている。

(参考) 計画に位置付けた庁舎整備関連事業

鳥取市役所本庁舎建設事業、地域交流センター整備事業、幸町棒鼻公園整備事業、緑化施設等整備事業、市道天神町4号線整備事業、防災備蓄倉庫整備事業、鳥取市役所駅南庁舎整備事業
(健康づくり、子育て支援)

3. 鳥取駅周辺の賑わい創出について

(1) 基本的考え方

①市長の政策公約に基づき設置した「S Qプロジェクト鳥取駅周辺再整備チーム(以下、「PT」)」において抽出した駅周辺エリアの課題等を踏まえ、駅周辺活性化に寄与する具体的なソフト・ハード事業に関する検討を継続し、R2年度に予定している「(仮称)鳥取駅周辺賑わい再生基本構想」策定の取り組みにつなげるため、今年度は「基礎調査 ※注1」及び「交通量調査 ※注2」を実施している。

②県・市・JR・商工会議所の4者により「鳥取駅周辺活性化協議会」を設置し、「基礎調査」及び「交通量調査」の進捗状況を共有するとともに、駅周辺エリアの賑わいを創出するため、様々なソフト事業を実施・検討していく。

(2) PTにより抽出された課題に対する今後の取り組み

①公共交通の充実とアクセス性の向上

交通結節点としての機能を強化することにより、駅周辺エリアへの来街者の増加および公共交通利用者の増加につなげるための検討を行う。

②景観向上、交流人口の拡大、回遊性の向上

自家用車・自転車等利用者の利便性を高めることにより、駅周辺エリアへの来街者の増加につなげるため、自家用駐車場・駐輪場機能の強化について検討を行う。

③駅周辺のさらなる賑わいの創出

魅力あるイベント開催や商業機能の導入により、駅周辺エリアへの関心喚起や来街者の増加につなげるため、バード・ハット、風紋広場、ケヤキ広場等の利活用促進策等について検討するとともに、実施可能な事業は速やかに行う。

④バリアフリー化による回遊性の向上

誰にも安全・安心・快適な歩行空間を確保することにより、駅周辺エリアの回遊性を高めるため、新たな歩行者導線の設定や歩行環境の整備等について関係者との協議を進める。

⑤回遊性・滞在性の向上

駅周辺エリアの観光・コンベンション客等の受け皿機能を強化することにより、駅周辺エリアへの来街者の増加ならびに滞留時間の延長につなげるため、ニーズを踏まえた観光機能等の強化について検討を行う。

※注1 鳥取駅周辺の土地利用・地価動向、商業・消費動向、集客力、来街者ニーズ、公共交通利用状況、観光客動向等について分析し、駅周辺に求められる機能等を洗い出し、将来コンセプトを示す。

※注2 駅北の歩行者動線の向上を図るため、交差点に横断歩道の新設を目指すにあたり、市役所本庁舎移転及び鳥取西道路開通など交通量の変化が見込まれる前後の調査を行い、関係機関と協議する。